

府中の地域資料の魅力

東京外国語大学文書館・府中市ふるさと府中歴史館共催展示



東京外国語大学
(建設中)

朝日町遺跡

多磨駅

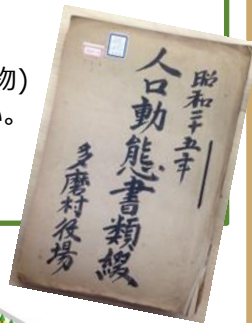
東京外国語大学では府中市と協働し、地域の歴史資料の調査を実施しています。2015年度からは古文書調査を、2016年度からは行政文書調査を実施し、市内の各地に眠る古文書や、府中市が保管する歴史的な行政文書の調査とその整理・保存を進めています。今回の企画展では、そうした調査の過程で発見された実は身近にありながらも貴重な歴史資料の一部と、その整理・保存方法について紹介します。

- ◆展示期間：2017年11月22日～12月
- ◆展示場所：附属図書館1階展示スペース（右下印の建物）
※開館時間については附属図書館開館時間をご確認ください。

【上】1990年代後半 多磨駅周辺地図

【東京外国語大学アクセス】

- ◆西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分
- ◆京王電鉄「飛田給」駅北口より徒歩20分
- ◆多磨駅行き京王バス
「東京外国語大学前」下車



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

1. 行政文書調査委託事業

東京外国語大学文書館では、2016年度より「府中市行政文書調査委託事業」として、府中市立ふるさと府中歴史館が保管する歴史的な行政文書の調査・整理を実施しています。府中歴史館の収蔵庫には1877年(明治10)～1954年(昭和55)の4400点を超す行政文書が保管され、本学の学部生・大学院生により、その目録整備が進められています。

行政文書の整理作業は、普段なかなか手にすることのない歴史資料に直接触れ、その保存・活用環境の在り方を考える機会となるとともに、「実は身近な」行政文書の持つ歴史的価値を知る機会ともなっています。

行政文書目録作成の難点は、文書ごとに形態が異なりタイトル等の採録項目の標記箇所が一定でない点、虫喰い等の被害やくせのある手書きの文字のために判別が困難である点等が挙げられ、作業には訓練が必要です。本委託事業では作業を通じて学生が文書整理・保存の一定の技能を習得することを目指しています。作成された目録は、現在、府中市が進めている府中市史編纂事業に活用され、近代部会の調査に貢献しています。



【上】行政文書整理作業の様子

2. 行政文書とは？

行政文書とは、行政機関(国、都道府県、区市町村)において作成・取得された文書のことを言います。その中には、各行政機関で作成された計画書・予算案・報告書だけでなく、市民から提出された陳情書・申請書や、メールなど多様な形態・内容の文書が含まれ、行政の施策や市民生活の様相が確認できます。

特に区市町村の場合、市民の生活に直接関わる行政サービスを担っていることから、その時代の地域の生活感が生き生きと伝わる文書が多く存在します。行政文書は行政の活動を将来の国民に説明する根拠となる役割を持つとともに、市民の生きた証を残す役割を担っています。

行政文書には府中市で作成された文書に加え、国や東京都(府)からの通達も含まれます。今回行う各簿冊の文書件名の目録整備が進むことで、府中市の行政活動はもちろん、東京都(府)と市町村の関係性など新たな発見が予想されます。

今回の企画展では調査の過程で発見された震災に関する行政記録の一部を紹介しています。



【上】多磨村の関東大震災の概況を伝える行政文書

3. 古文書調査委託事業

府中市史編さんでは、古文書をはじめとする歴史資料の所在確認・調査を実施しています。古文書とは、昔の人の暮らしや地域の歴史を知る手がかりとなる史料です。当時の人びとの日記や書類・証文など文字で書かれたものだけではなく、絵図や昔の地図も含まれます。絵図や地図は、当時の家や道、川などがどこにあったのかを再現できる重要な史料です。

古文書は、旧家・集会所・寺社の土蔵や押入れなどにも、まだ多くが未整理のまま遺されています。調査開始時には、まず、古文書が現在保管されている状況から記録(=現状記録)していきます。

今回の企画展では四ツ谷地区において発見された古文書を中心に紹介します。



【上】古文書、現状記録の様子